「新たな公益活動の芽生えと今後の展望～震災後2年を前にして～」
主催者挨拶　内閣府公益認定等委員会委員長　池田　守男

１．本シンポジウム開催の趣旨

ただ今御紹介をいただきました、内閣府の公益認定等委員会委員長を務めております池田でございます。

本日は、大変お忙しい中にもかかわらず、内閣府主催シンポジウムにこのように大勢の皆様方に御出席いただき、深く感謝申し上げます。

御承知のように、東日本大震災から間もなく2年が経過しようとしております。震災は大変不幸なことではございますが、多くの個人や団体が寄附活動や復旧・復興活動に積極的に取り組んでおられます。これは、被災者の皆様の痛みを我が痛みとし、その苦しみを我が苦しみとする、他者とともに生きる、その姿の現われではないかと思います。これこそが、喪失されつつある日本人の伝統的な精神、すなわち、互助・互恵・共助の精神が社会の中に蘇りつつあることにもつながるのではないかと思っております。

この新たな公益活動の芽生えを、私は、新しい時代に、そして、次の世代でさらに大きく広げてもらいたいと願う者の一人でございます。このことは、公益認定等委員会の委員7人の共通の思いでもあります。この思いを結実させるため、「新たな公益活動の芽生えと今後の展望」と題し、シンポジウムを開催させていただくことになったわけでございます。

２．シンポジウムの構成

本日、このシンポジウムに、大変お忙しい中にもかかわらず、稲田大臣に御出席いただいております。ありがとうございます。後ほど御挨拶を頂戴することになっております。

また、その後、私の尊敬してやまない曽野綾子先生から基調講演をいただくこととなっております。皆様御承知のように、曽野先生は、日本財団の会長を長く務められるとともに、貧困にあえぐ世界各国でボランティア活動に取り組んで来られました。さまざまな御経験をもとに貴重なお話をお聞かせいただけるのではないかと思い、楽しみにいたしております。

その後のパネルディスカッションでは、復旧・復興活動の現場で活躍しておられるSWEET TREAT311や、そうした活動を側面から支えておられる三菱商事復興支援財団やヤマトグループの取組を通じて、今後、公益活動を社会に根づかせるために、私たち自身がどのような使命、役割を持ってこれに臨めばいいのか、このシンポジウムがそういったことを考える機会になれば大変ありがたいと思います。

３．法人へのメッセージ

さて、新公益法人制度への移行期間が残り10カ月となっております。詳しくは後ほど委員長代理の雨宮より説明を申し上げますが、これまで委員会では約4,000件の申請を受け付け、約3,000件の答申を行ってきております。新公益法人制度の施行以降、公益認定等の審査を通じて、それぞれの法人の志や活動そのものに触れさせていただいております。その一つ一つが社会の中で大変重要な役割を担っておられ、また、その存在はかけがえのないものであるということを強く教えられております。

今後はぜひとも現在の使命をさらに深めていただくと同時に、多様化するニーズに応えて、新たな公益目的事業にチャレンジしていただくことを強く期待いたします。
また、今後はさらに個人や企業等の支援によって新たな公益法人や一般法人が数多く新たに誕生することにも期待しております。

我々委員会といたしましては、公益法人の皆様の活動を下支えし、社会に定着させることが使命であると考えております。移行期間終了後も、引き続きさまざまな局面で皆様の活動を最大限サポートさせていただく、そういう覚悟でございます。

４．企業へのメッセージ

また、企業は営利法人ではありますが、これからの社会において、これまで以上に多様な形での公益活動の重要な担い手になっていただきたいと願うものです。21世紀に入りましてから、企業のCSR活動は、企業自身にとりましても大変重要な活動の一つであります。しかし、それ以上に、もう一歩踏み込んでいただきまして、企業の事業活動そのものの中に公益性を追求することが、これからの時代、大変重要なファクターになってきているのではないかと思うものでございます。

商人道の中に「三方良し」という言葉がございます。公益活動を体現することは、社会からの信頼、支持、評価にもつながってくるのではないかと思います。そういうことを考えますと、そのことは、ひいては企業の発展成長、充実、さらにサステナビリティそのものにもつながってくるものではないかと思います。

５．最後に

最後になりますが、公益法人、一般法人、NPO法人を始めとする民間の非営利組織に加えまして、地域コミュニティ、個人ボランティア、そして、営利企業も含めあらゆるセクター、組織が公益活動を担うということが大変重要ではないかと考えます。それらの主体が担う公益活動の中には、ただ今積極的に行っていただいております災害支援はもちろんのこと、教育、福祉、あるいは、我々の生活を豊かにする芸術、文化、スポーツなども入ってまいります。そういった幅広い分野において積極的に、公益活動を担っていただくことによりまして、かつ公益活動が社会インフラとして定着することによって、社会は一層豊かな、温かい、やさしさに満ちたものになるのではないかと思います。私たちの生活も、それに基づきまして深みや潤いのあるものになるのは間違いないのではないかと思います。そして、その実現は私たち一人一人の行動にかかっております。

本日のシンポジウムが、今後日本が進むべき道しるべとなることを願いまして、冒頭の御挨拶に代えさせていただきます。本日は、このように大勢の方に御出席いただきまして、心より感謝を申し上げます。改めて、皆様方のために、私ども委員会も全面的にサポートさせていただくことをお誓い申し上げて、結びといたします。ありがとうございました。